

魅力発信！えひめ農業NOW

令和元年11月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業NOWは、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業振興＞愛媛県農業技術情報サービス
※2 この動向は、11月中に各普及地区から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

「魅力発信！えひめ農業NOW」（11月分）

東予地方局地域農業育成室

■農福連携による里芋収穫

- 地域農業育成室は、JA周桑と連携し、農業者と障害者就労施設との農福連携を推進しており、11月21日に西条市小松町で里芋収穫をマッチングした。
- 当日は、農事組合法人「大頭」が本年度から試作栽培をしている里芋圃場50aで、法人組合員が里芋を専用機械で掘り起こし、市内の障害者就労施設利用者が里芋を分割し、コンテナに入れ、共同で運搬作業を実施した。
- 施設利用者と農業者の役割分担が明確で、作業も順調に行われたことから、来年100aに規模拡大を予定している当法人は、他の品目での作業も含めて次年度以降も農福連携に期待を寄せている。



法人組合員による専用機械での掘り起こし



施設職員との作業内容の確認

■大阪市で太天柿のPR活動と市場調査を実施

- 地域農業育成室は11月16日に大阪梅田本店でJA東予園芸の太天柿（商標登録名：福嘉来^{ふくがき}）の試食宣伝PRを行った。
- 直径が12cmを超える極めて大きな柿であり、来店客は「カボチャかと思った」等、一様にその大きさに驚き、注目度は抜群であった。
- 試食では「甘い」という声が多かった一方、更なる甘さを期待した声や、後味に渋味が残ることに苦言を呈する意見もあり、課題として持ち帰る結果となった。
- 大阪市内の百貨店等を調査した結果、柿の最高級品として位置づけられ1玉1,000円以上で販売されていた例が多く見られた。
- 高単価を維持していくためには消費者の期待に応える食味であることは必須条件であり、当室では今回の結果について講習会を通じて同JAや生産者に伝え、高品質果実生産に向けて技術指導を行う。



太天柿をPR

四国中央農業指導班

■さといも疫病防除対策検討会の開催

- 四国中央農業指導班は11月1日に、農林水産研究所、市、JA、青果業者が一堂に会した疫病防除対策検討会を開催。

- 検討会では、病虫害防除所、農林水産研究所、四国中央農業指導班から今年度の疫病発生状況や研究成果、現地指導等について説明。
- 意見交換で、JA等からは登録を予定している薬剤の防除効果や使用回数などの質問が多くあり、新たな薬剤への期待が大きいことが判明。
- また、農林水産研究所からドローン防除の実用化に向けた提案があり、対応する薬剤登録防除効果等の意見が出た。
- 1月30日には、宮崎県総合農業試験場の黒木特別研究員兼副部長を迎えて、生産者を対象とした「東予地区さといも疫病セミナー」を開催し、疫病の防除対策を徹底する。

■えひめ食の大使館に葉物野菜を販売促進

- 四国中央指導班は11月20、21日、普及組織先導型革新的技術導入事業を実施している加藤農園の葉物野菜について、大阪市内のえひめ食の大使館「媛」や「BUZZ梅田」において販売促進を実施した。
- 加藤農園の栽培方法の特徴を説明し、事前に提供していたサンプルについては「大変美味しく、彩りや食感もよい」「日持ちがする」など品質評価は高かった一方「鮮度を重視しているので、新鮮なうちに使い切りたい」「近県や地元産との価格差」などの意見もあった。
- 今後は、輸送コストや鮮度維持など地元産との競合はあるが、定期的に野菜セットを発送していくこととなったことから、愛媛県大阪事務所と連携を図り、他店舗への販路拡大を支援していく。



「媛」正岡社長(右)との面談



「BUZZ 梅田店」井上シェフ(左)との面談

東予地方局産地戦略推進室

■「紅い雫」現地セミナーに多数の参加者

- 産地戦略推進室は、11月25日にいちご「紅い雫」現地セミナーを開催し、生産者等36名が出席した。
- 室内研修では、増収効果が期待される炭酸ガス施用や日射比例かん水等の環境制御技術と天敵を活用した害虫防除について、最新の情報提供を行った。
- 管内では来年度、新規に2戸(役10a)が「紅い雫」の栽培を開始する予定である。



現地研修の様子

今治支局地域農業育成室

■鳥獣害対策講習会を開催

- 今治支局地域農業育成室は 11 月 7 日、新規狩猟免許取得者の技術力向上のため、鳥獣害対策講習会を開催した。
- 同室では、狩猟免許を取得して間もない農業者が、止め刺し方法に悩んでいるケースが多いことを受け、安全な捕獲活動のための電殺機の使用について、講習会を開催したもの。
- 当日は、わな猟免許取得者 9 人が参加し、「えひめ地域鳥獣管理専門員」の認定を受けた普及指導員が、電殺機を使っての止め刺し方法を動画を見せながら説明。
- その後、参加者は電殺機のつくり方を学びながら実際に組み立て、「今年からの捕獲活動を始めるので、止め刺しの道具を事前に準備することができて良かった。安全に使用したい」と感想を述べた。



電殺機の組み立て実習

今治支局産地戦略推進室

■オリーブ加工先進地研修の実施

- 産地戦略推進室は 11 月 28 日、香川県小豆島へのオリーブ加工先進地研修を、生産者、地元企業、地域おこし協力隊、今治市、JAおちいまばり等 20 名の参加を得て実施した。
- 研修先の東洋オリーブ株式会社は、栽培面積 25ha の日本最大級の自社農場で栽培したオリーブを、イタリア製大型搾油機を導入しオリーブオイルの搾油を行うとともに、化粧品、ジャムなど多様な加工品の製造販売を行っている会社であり、新たな加工品開発を目指す参加者は大きな刺激を受けた。
- また、同社専属のオリーブオイルのソムリエによるしまなみ産オイルの試飲評価では、より鮮度の高い品質の良いオイルを目指すには、濾過技術の向上が必要ではないかとの意見を得た。
- 今後、参加者がオリーブを活用した食品や手作り石鹸・化粧品など新たな加工品開発が出来るように、知見や情報収集を図る。



加工研修の様子

■大田市場で今治産花木の販売促進活動を行う

- 今治支局産地戦略推進室では、局予算「新花材ピットスポラム等生産力強化事業」を活用して、花木の販売促進活動を行っている。
- 同室は 11 月 22 日、東京の大田市場において今治産花木 1,100 本の販売促進活動を、JA おちいまばりと連携して行った。
- 仲卸業者の協力のもと、今治産花木を用いたディスプレイの展示を行うとともに、ビブルナム・ティナス、メラレウカ、ピットスポラムの対面販売を行った。
- 購入者からは、「ビブルナム・ティナスの独特な青色と光沢が美しい」「メラレウカの黄色品種は鮮やかな色で、花束が映える」等と高評価であった。



販促活動の様子



今治産花木を用いたディスプレイ

中予地方局地域農業育成室

■伊予柑超省力栽培実証の中間検討会を実施

- 地域農業育成室は 11 月 1 日、地方局予算「伊予柑を中心とした柑橘産地復興モデル確立事業」に係る第 2 回検討会を局庁舎で開催。管内 J A、市、研究機関、中予局の関係者 19 名が参加し、これまでの実証に係る中間検討と今後の事業内容の協議を行った。
- 本事業は、基幹品目である伊予柑の超省力化栽培技術の確立と普及を目指しており、これまでにドローン防除の実証や園内道の設置を行ったところ。
- ドローン防除については、防除時間が非常に短くなったが、感水紙への薬液の付着量調査で散布ムラが懸念されており、黒点病の防除効果については、収穫果で確認することとしている。
- 今年は伊予柑の着色が遅れており、実証園の収穫は 12 月中旬以降の予定。今後、データを蓄積し省力効果を確認したうえで技術普及を図る。



黒点病微発生果実

■高浜復旧モデル地区のワーキングチーム会を開催

- 地域農業育成室は 11 月 1 日、第 4 回高浜地区復旧モデルワーキングチーム会を局庁舎で開催し、J A えひめ中央及び松山市、中予局農村整備第一課の関係者計 20 名で、今後の支援方策等について検討した。
- 工事の進捗については市農林土木課が、10 月に着工し、被災園地山手奥側から順調に整備が進んでいることを報告。また、J A が生産者の意向（栽培品種等）を説明するとともに、本室と市農林水産課が活用可能な補助事業等について提案した。
- 栽培品種が確定している園地は、既に苗木の確保はできており、今後は堆肥投入等の土づくりを行い、準備できた園地から春に植栽を開始する予定。
- 同室は、工事の進捗に合わせてワーキングチーム会を開催することとしており、今後も生産者の意向を確認しながら、植栽方法や補助事業の活用等を検討していく。



復旧が進む被災園地（高浜地区）

■イチゴのハダニに対する天敵利用が拡大

- 地域農業育成室は11月6日、東温市農村環境改善センターにおいて、イチゴ天敵講習会を開催し生産者18名が参加。
- イチゴのハダニ類防除は、有効な薬剤が少ないことや葉裏に薬液がかかりにくいことなどから、同室では天敵の利用を推進しており、今作、新規に6名（100a）が導入した。
- 10月31日からハダニ類の発生予察注意報が出ているが、天敵導入圃場ではハダニの発生が見られておらず、生産農家はその効果を実感している。



2種類の天敵を同時放飼する方法を指導

■農業ジョブコーチ育成研修会で柑橘栽培での農福連携を啓発

- 地域農業育成室は11月12日、果樹研究センターで農福連携に係る第3回農業ジョブコーチ育成研修会を開催し、福祉施設支援員及びJA、市町職員23名が参加。
- 今回の研修会では、柑橘栽培の基礎知識と土づくりについて講習するとともに、果実の袋掛けや収穫作業を体験し、施設利用者が作業する場合の留意点等について指導した。
- また、両作業の労働補完を希望する農家が多い中で、連携しやすい作業として紹介した。
- 当日は、各施設の情報を共有するため、出席者で意見交換を行い、農作業での就労支援の取組みや、栽培品目や技術、販路に関する悩み、施設外就労の希望等を聞き取った。
- 今年度、管内ではJAを窓口とした作業委託システムを構築したところであり、同室では今回の福祉施設からの要望や意見を踏まえ、今後の研修会のメニューやマッチング等に反映させながら農福連携を推進する。



柑橘の収穫作業について指導

伊予農業指導班

■重点支援対象の法人設立が進む

- 伊予農業指導班は、重点対象としている個人及び集団の法人化を支援しており、11月末時点で、既存の25法人に加え今年度新たに4法人が設立された。
- 「(株) ゆめゆめ農研」：松前町の就農3年目の農業者で、施設きゅうり栽培を中心とした労働集約型作物で経営を目指し9月20日に設立。
- 「(株) まさきばたけ」：松前町の就農5年目の農業者が、レタス栽培を中心とした土地利用型作物で経営を目指し11月1日に設立。
- 「(株) 春昇」：砥部町の農業者2名が柑橘類の生産加工販売を目的に9月2日に設立。
- 「(株) まさきRookies」：松前町の4名が野菜を中心とした生産・販売を目的に10月4日に設立。
- 指導班では引き続き、4法人の経営安定を指導するとともに、新たな法人設立に向けた支援を行う。



法人設立に向けた各種相談に対応

■中山栗プロジェクト会議で今年度の実証成果を報告

- 伊予農業指導班は11月15日、第3回中山栗プロジェクト会議を開催し、今年度の実証成果を報告するとともに、担い手の確保等について検討した。
- モデル園地の平均収量は171.5kg/10a（昨年度167.3kg）で、目標の200kg/10aには届かなかったものの、12園地中5園地が目標を上回った。
- また、担い手の確保について、新規就農者1名が栗栽培を開始することを報告するとともに、林業関係作業受託組織の参入について情報を共有した。
- プロジェクト会議終了後は、モデル農家との意見交換を行い、「低樹高化することで光環境が改善され着球数が増え収量が向上した」「薬剤散布による虫害果の発生が少なかった」などの好評価が得られた。
- 指導班では、今後開催される出前剪定講習会や決算会等を通じて一般農家へ実績を報告し、実証技術の波及に努める。



モデル園の実証成果を報告

■集落リーダー等が水稻新品種「ひめの凜」、さといも栽培技術を学ぶ

- 伊予地区集落営農組織等連絡協議会（事務局：伊予農業指導班）は11月22日、水稻、麦、さといも等の土地利用型作物の技術支援を実施し、集落営農組織の経営安定を図るため、農林水産研修所と連携し、研修会を開催した。
- 研修では、管内の集落リーダーやJA等の農業指導関係者50名が出席し、指導班から、集落営農組織での導入が有望な、さといもの栽培技術・機械化一貫体系の概要、はだか麦収量向上のための総合改善対策、農作業安全について説明を行った。
- 農林水産研究所は、水稻新品種「ひめの凜」の栽培ポイントや白未熟粒の発生要因について説明した。
- また、松前町産「ひめの凜」の食味評価会を実施したところ、「にこまる」に比べ香りや味が良く、今後栽培してみたいという調査結果となった。



技術研修会で集落営農組織の経営安定を図る

久万高原農業指導班

■就農研修生を対象とした経営指導を実施

- 久万高原農業指導班は11月8日、久万農業公園研修生6名を対象とした経営研修会を開催。
- これは、就農後の定着率を高め、地域の担い手として育成するため、研修内容の充実に向けた取組みとして実施しているもので、農業公園での研修期間中に、就農時の適正栽培規模の算出や5年後の経営計画の立て方等を学び、スムーズに就農できるよう個別相談形式で行っている。
- なお、年間を通じた研修メニューは、トマトの生理生態や栽培管理方法など生産技術に関するものの他、農地取得や補助事業の活用方法などの知識も習得できる内容としており、経営面での指導の充実に研修生からは好評を得ている。



就農時の経営計画等について個別指導

中予地方局産地戦略推進室

■「飲食店で楽しむ“東温パクチーフェア”」でパクチーを広くPR！

- 産地戦略推進室では、松山市中心街等の飲食店11店と協力して、“東温パクチーフェア”を11月15日～24日の期間開催し、東温市産パクチーのPRを実施した。
- 期間中、アジアンやエスニック、イタリアンなど個性豊かな11店舗では、東温市産パクチーを用いたオリジナルの料理が提供され、多くの消費者に地元産の新鮮なパクチーの魅力を伝えた。
- フェアに参加した飲食店からは、「地元産で新鮮、香り豊かなパクチーを調理し提供できることは、話題性もあって非常に魅力的な食材」などと高評を得ており、今後の安定供給や更なる品質向上に対する期待の大きさが伺えた。
- 同室では、今後も引き続き、「東温パクチー産地づくり事業」において東温市産パクチーの生産拡大を支援するため、流通販売の拡大を狙った積極的なPR活動を生産者とも連携して実施する。



フェアで提供された東温市産パクチーを使ったオリジナル料理

南予地方局地域農業育成室

■えひめ南の温州みかんで被災地に元気を

- JA えひめ南は、地域農業育成室や防災危機管理課と連携し、10月の台風19号による大雨で被害を受けた東日本の被災地に元気を与えようと、早生温州を県や市町職員が派遣されている被災地に向け、11月19日に福島県本宮町、25日に宮城県丸森町へそれぞれ10kg箱で30箱ずつ発送した。
- 発送に先立ち、11月14日に同JAの山本組合長が知事を訪れ、発送の趣旨や早生温州の贈呈等を行い、山本組合長から「昨年の西日本豪雨災害では、全国各地から手厚い支援を受けた。少しでも恩返しをしたい。おいしいみかんを食べて元気になってもらいたい。」と述べた。
- 同室では、引き続き、防災危機管理課等と連携しながら被災地の情報を収集し、新たな発送先があった際には、JAと調整し、その時期に応じた温州みかんを発送する。



県へ早生温州の贈呈

■第3回源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会を開催

- 地域農業育成室は11月19日、第3回「源吉兆庵ファクトリーブランド促進協議会」を開催し、収穫を終えた4品目（くり、もも、かき、びわ）の出荷状況や生産現場での課題、(株)源吉兆庵が要望する品質など、今後の改善策を中心に情報交換を実施。
- 主な検討内容として、「くり」のペーストを用いた果肉色の品種・産地別の評価、「かき」は、次年度に源吉兆庵と連携した軟化対策のための追熟試験の方法、「もも」と「かき」では、新たな品種の導入、「びわ」では無袋栽培について意見交換を行った。



くりの品質評価

鬼北農業指導班

■くりの大規模高収益栽培モデル園で定植及び自動灌水システムを設置

- 鬼北農業指導班は11月22日、「普及組織先導型革新的技術導入事業」により設置を進めている、くりの大規模高収益技術の実証モデル園（1.5ha）において、くりの苗木450本の定植を完了した。
- 定植作業においては、オートレベル及び5m間隔に目盛を付けたロープ等を利用して、等高線及び垂直方向に定植が正確に行えるよう指導した。
- 定植後は、苗木の株元に点滴灌水チューブを設置するとともに、山頂の貯水タンクや給排水ポンプに水位センサー、降雨を感知するセンサー、電磁弁、液肥混入機等を設置して自動灌水システムを整備した。
- 指導班は、自動灌水システムの活用方法等を指導し、くりの高収益省力化栽培を目指す。



定植した苗木と点滴灌水チューブ



新たに整備した園内作業道

■「鬼北産ゆず」のEU(フランス)初輸出に向けた梱包作業

- 鬼北農業指導班は11月26日、EU向けゆず輸出に取り組むため、植物防疫所立ち会いのもと、ゆず30kgの選果・梱包作業を実施した。
- EU向けのカンキツ輸出は規制が厳しく、同班の実証圃場を輸出対象園地にするべく生産園地登録し、4月から11月にかけて、2週間に一度の植物防疫所による害虫のトラップ調査による合格判定を経て、この程輸出が可能となった。
- 当日は、植物防疫所検査官が一果ずつカイガラムシ等の害虫やかいよう病の発生のないことを確認し、果実の表面殺菌を行った後、梱包した。

○ゆずは、12月3日～5日にフランスのパリで開催される展示会「Food Ingredients Europe」に出展し、同班の職員も参加してEUでの商流構築を図る。



植物防疫官による果実検査



果実の水滴をふき取る様子

愛南農業指導班

■草刈り作業のスマート化を目指して

- 愛南農業指導班は10月23日、地域の認定農業者や青年農業者を対象に対し、全国で実施されているスマート農業技術に関する情報提供を行うため、松山市のメーカーの協力のもと、無人草刈機の操縦体験を行った。
- これまで、ラジコンによる斜面の無人草刈機は様々な機種が販売されているが、動力源がモーターであるために連続運転ができないことや、20度を超える傾斜地での作業はスムーズに行えない等の問題を抱えていた。
- 当日、愛南町城辺の河川敷で行った研修においては、エンジンとモーター駆動の両方を搭載した機種で、3時間以上の連続運転が可能であり、45度の傾斜作業にも対応できることから、農業者の関心は非常に高かった。



受講者による操作演習



ハイブリット型ラジコン草刈り機

八幡浜支局地域農業育成室

■八幡浜管内初の農福連携始まる

- 地域農業育成室は、県の農福連携促進モデル事業を活用し、JAにしようと管内福祉事業所のマッチングを進めた結果、11月11日から川上共選と就労継続支援B型事業所「いきいきプチファーム」の連携が開始された。

- これは、昨年からの温州みかんの収穫や選果場での箱詰め等の作業体験や、今年11月6日の共選場での具体的作業内容の実習を踏まえ実現したもの。
- 現在、共選では、施設利用者が主に3kg箱への手詰め作業に従事し、安定した成果も見え、効率的な人材活用につながると高評価。
- さらに、これまで共選場で従事していた労働力が、温州みかんの収穫作業に向かえることから産地労働力の確保につながると見込まれている。
- 福祉事業者は、今回が初めての施設外就労となり、「利用者の皆さんの新たな可能性や喜びにつながる」と今後に期待を寄せている。
- この作業は、6～8人/日のグループが一日当たり3時間程度働き、12月26日まで続く予定。



慎重に検品する福祉サービス利用者

西予農業指導班

■南予地域いちご現地セミナーを開催

- 西予農業指導班は10月31日、西予市で「南予地域いちご現地セミナー」を農林水産研究所と共催し、南予地域のいちご生産者、関係機関等40名が出席した。
- 本セミナーは、南予地域のいちご高品質安定生産を図り、産地の拡大につなげることを目的に開催し、県育成品種「紅い雫」等の栽培ポイントや、今後のいちごに求められる品種特性、西予管内で実証している総合防除（IPM）の取組み等について講習を行った。
- 現地研修では、「紅い雫」優良生産者圃場で実際の栽培管理のポイントについて活発な情報交換が行われ、新規生産者と優良生産者がつながりを持つきっかけづくりとなった。



栽培のポイントについて学ぶ参加者



現地研修の様子

■新規栽培者によるいちご「紅い雫」の新たな販売取組みが始まる

- 西予市管内では、今年から新規にいちご「紅い雫」栽培に取り組んでいる4戸の収穫が11月から順調に始まっている。
- 指導班では新規栽培者に対して、技術の早期習得及び高付加価値販売につながる取組支援を行っており、この内2戸が、個別に県内外の量販店等に販路を確保できたことから、12月から本格化する出荷・販売に向けて個人ブランドの出荷パッケージ等を作成。
- また、既存の「紅い雫」出荷者1戸も減農薬栽培で付加価値を高めた商品として、県外デパートに向けた有利販売の取組も始まっている。
- 指導班では、品種による差別化とバイヤーや消費者の心を捉えたいちごのブランド化を目指すモデル農家育成に向け、関係機関と連携し新たな産地づくりを支援していく。



「紅い雫」個人ブランド パッケージ、シール

八幡浜支局産地戦略推進室

■フィンガーライム産地化に向けて

- 産地戦略推進室は、フィンガーライム産地化に向け、新規栽培候補者の支援を続けている。
- このうち、来年から栽培予定の西予市の園地では、栽培中の晩柑を収穫した後に園地造成をする計画、作業道の確保や防風垣管理のほか補助事業等の活用について助言した。
- 今後は、協議会設立が検討され、生産者を組織化する予定。当室は、引き続き市や農業共済など関係者と連携して「“国産”“フレッシュ”フィンガーライム＝愛媛」のキャッチフレーズで産地化を目指す。

■大阪の愛媛フェアで西予産ニラをアピール

- 八幡浜支局産地戦略推進室は、関西圏でのニラ販売現状把握と産地への要望調査「普及組織先導型戦略的産地育成事業」（9月5日～6日）をきっかけに、愛媛県大阪事務所・JAひがしうわと連携して、松坂屋高槻店内の九州屋で実施される愛媛フェアへの出品を推進し、10月30日～11月5日、フェアでのニラ販売が実現した。
- 西予産ニラの品質評価は高く、成果を産地へフィードバックして生産意欲の高揚を図り、産地拡大・継続販売への足がかりとしていく。



愛媛フェアでの販売

■柑橘輸出拡大促進を検討

- 産地戦略推進室は28日、ブランド戦略課、JAにしうわと甘平の台湾輸出について出荷計画を検討した。
- 当日は、今年産甘平の生産状況確認と、今後の見通しについて意見交換した後、JAから出荷スケジュールや、国内輸送先までの物流方法等について検討が必要との意見が出された。
- 春節(1月24日)に向け、1月17日～19日に甘平の販売プロモーションを計画していることから、同室では4人の生産者の品質・着色状況に応じた集出荷計画の作成について助言を行い、輸出の取組みを支援する。



■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

文中略称	正式機関名	所在地および連絡先
東予	東予地方局産業経済部 産業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
四国中央	東予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
今治	東予地方局産業経済部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
しまなみ	東予地方局産業経済部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予	中予地方局産業経済部 産業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
久万高原	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
伊予	中予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予	南予地方局産業経済部 産業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
鬼北	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
愛南	南予地方局産業経済部 産業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
八幡浜	南予地方局産業経済部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
大洲	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
西予	南予地方局産業経済部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543